

平成22年12月28日

神奈川県立多摩高等学校  
同窓会員の皆さま

神奈川県立多摩高等学校  
校長 石塚 昭司

全国高校駅伝に係るご報告並びに御礼

12月26日（日）、京都市の西京極陸上競技場を発着点とする男子第61回全国高校駅伝競走大会に神奈川県代表として、わが多摩高校の陸上競技部が出場いたしました。一昨年、昨年に引き続き神奈川県大会において3連覇をはたしての連続出場であり、全国大会を経験した選手が6名エントリーされたこともあり、監督、選手ともども手応えを感じながらの出場となりました。

本年も昨年同様、多摩高応援団の集合場所を第1区と2区の鞍馬口中継地点に設定いたしました。当日駆けつけてくださった同窓会役員の方々、本校の職員等々と、選手の到着を待ちました。1区は都大路3回目となる3年生藤澤怜欧君、各校のエースが集結する1区を25位で2区平山雄大君（3年）に襷をリレーしました。平山君は区間7位という素晴らしい好走をみせ、区間18位に順位を上げました。

続く3区は坂本貴則君（3年）。やや順位を落とし30位で4区前野陽光君（3年）にリレー、前野君は一つ順位を上げ29位で5区尾崎拓磨君（3年）につなぎ、尾崎君は区間11位の力走を見せ、24位まで順位を引き上げました。

6区の榊川健太郎君はチーム唯一の1年生、初めての都大路を粘り強く走り24位を死守、アンカーのキャプテン本広大裕君（3年）に襷をつなぎました。本広君は最後の都大路、悔いのないレースにしようと思地を見せてくれました。競技場内で抜きつ抜かれつの大接戦を制し、24位でゴールしました。総合タイムは2時間9分00秒でした。

当初は神奈川のゼッケン番号14位をチームの目標に掲げていましたが、それでも現在の持つ力を十分発揮した24位であったと思います。県大会以降、故障もなく順調な仕上がりで京都に向かいました。周りの期待もこれまでになく強く、選手には大きなプレッシャーもあったことと思います。そんな中での24位は堂々と胸を張れる結果でありました。

選手一人ひとりの姿勢が他の多摩高の生徒に大きな感動を与えてくれたと信じています。そして多摩高関係者におおきな夢をプレゼントしてくれたこと等々、彼らの頑張りや年末の楽しい、素晴らしい一大イベントでした。

今回、県の代表権を得てから全国大会までの期間、同窓会の皆さまの暖かいご寄付、ご支援により、多摩高の名を再び全国に示すことができました。大会を終え、篤く、篤く感謝申し上げます。今後とも多摩高に、ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。